

# ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成13年 **2001.2**

月刊アカンサスニュース  
金沢大学広報紙 第54号

## 入試突入 大学入試センター試験→願書受付

TOPNEWS

大学入試センター試験が、1月20、21日、全国648の会場で行われ、県内でも今年から県立看護大学が新たに加わり、本学を含め6会場で約6,000人、本学でも、約3,700人が挑んだ。引き続き1月29日から本学の入学願書の受付が始まった。



大学入試センター試験 (文・法・経済学部A101講義室)

入学願書受付 (事務局第2会議室)

## 南極の冰山とペンギン

南極越冬隊員の久保栄さん(本学技術支援センター専門職員)から工学部あてに南極のペンギンの写真が送られてきた。



## 巻頭言

### ゆううつ 「憂鬱」 から もえぎ 「萌葱」 へ



副学長  
畑 安次  
(法学部教授)

例年のことながら、曇天下での憂鬱の日々が続く昨今である。後期の授業で課してあった三回分のレポートを、年末に読んで評価を終えた。出来が良くない。参考文献を挙げるよう指示してあるのに、何も読まずに書いたと思われる小学生の日記にもならないようなレポートが出てくる。憂鬱、憂鬱。

1月26日、提出期限間際の修士論文原稿に眼を通して欲しいという二人の院生が現れた。二人の指導教官ではないが、昨年度「特論」を担当した縁で講評を引き受けた。400字詰原稿用紙にして200枚を超える原稿である。熟読して、不適切な文章表現を訂正した上、文献資料引用上の注意点、論文構成上の問題点等を指摘した講評の一文をまとめた。土曜・日曜の二日を費やした。論文作成前に指導教官が指摘すべきことである。論文提出期限まで

に、私の講評を生かすには時間がないであろう。憂鬱、憂鬱。

それにしても、修士論文にしては多くの欠点が眼につく。大学院重点化の結果、以前に比べて本学の大学院への入学が易くなったことは、否めない事実である。大学院における高度専門教育を唱えるのは易しい。必要なのは、教養教育を含む学部教育と大学院教育における厳格な指導である。しかし、このことが教官の間でどれほどの共通認識となっているであろうか。憂鬱、憂鬱。

入試センター試験は、大雪にもかかわらず平穩のうちに終了した。後は前期日程・後期日程の試験である。そして卒業式と入学式である。昨年11月末の内定率から卒業生の就職を考えると気が重い。4月には新入生を迎えることになる。彼(彼女)らの貴重な一年前期に十分な「導入教育」ができるであろうか。憂鬱、憂鬱。

早くも年度末をむかえようとしている。「恐ぶこと豪雪下の山菜のごとし」の日々であった。すでに春は立った。曇天下の憂鬱を吹き飛ばすべく、萌葱に染め上げた「元気印」の旗を立てよう。

## がん研究所 「外部評価委員会」を実施

がん研究所では、1月11日午前9時から、国内・国外のがん研究に係る第一人者に評価委員を依頼し、「外部評価委員会」(国際評価)を開催した。

当日は、評価委員により、各研究部門の、研究内容や現在までの成果及び今後の研究方針など細部にわたるインタビューなどが研究者に直接行われた。評価結果については、後日報告書として公表することとしている。



評価委員会会場

## 目次

入試突入 大学入試センター試験➡願書受付……………	1
南極の氷山とペンギン……………	1
「憂鬱」から「萌葱」へ……………	2
がん研究所「外部評価委員会」を実施……………	2
「金沢国際がんシンポジウム」を開催……………	
がん研究の最前線に触れる……………	3
教育学部「第3回 教育改善(FD)研究会」講演会……………	3
平成12年度 5回目の「国際交流講演会」開催……………	3
研究成果を社会に還元 金沢大学共同研究センター……………	4
総合移転第II期計画事業……………	
角間南地区大学院研究棟着工決定……………	5
「ベテラン係長」対象初の研修会……………	5

出向職員との懇談会……………	5
情報公開、待ったなし 4月開始に向け説明会開催……………	5
林学長年頭あいさつ「開放の中での自立」を強調……………	6
証明書自動発行システムを拡張……………	6
本学へのお客さま……………	6
金沢大学サテライト・プラザ……………	7
「金沢大学サテライト・プラザ」ミニ講演録が完成……………	7
訃報……………	7
金沢大学の皆様へ……………	8
キャンパス点描……………	8
編集後記……………	8

## 1月のニュースの杜

「金沢国際がんシンポジウム」を開催  
がん研究の最前線に触れる

がん研究所では、1月10日午前10時15分から、医学部記念館において「金沢国際がんシンポジウム」を開催した。

同シンポジウムは、がん研究所の研究成果を世界に広く知ってもらふこと及び世界のがん研究に関わる第一人者から、がん研究の最前線についての講演を聴くことによってがん研究のより一層の発展を図る目的で行われた。

会場には、翌日予定されていた外部評価の委員も参加し、真剣に耳を傾けるとともに、ディスカッションにも参加した。



シンポジウム会場における討論

## 教育学部

## 「第3回 教育改善(FD)研究会」講演会

教育学部では、「教育改善(FD)研究会」の一環として、1月23日の15時から教育学部会議室で講演会を開催した。

講師として招かれた福井大学教育地域科学部 森透助教授は、「教員養成学部における教育実践の試みー総合演習、附属学校との共同、教育実習事前事後指導をめぐるー」と題し、福井大学における教育実践の試みを失敗例もまじえて講演した。

50人の教職員が参加し、講演後の質疑応答では、活発なディスカッションが行われた。

今回は、3月2日(金)の14時から、信州大学教育学部長の藤沢謙一郎教授を招いて「信州大学の外部評価とその対応」の演題で講演会を予定している。



森助教授による講演

## 平成12年度 5回目の「国際交流講演会」開催

1月15日、附属図書館で本年度5回目となる「平成12年度国際交流講演会」を開催した。

この講演は、本学を訪れる外国人研究者が講師となり、教職員・学生の資質の向上を図るとともに、当該研究者を通じての国際交流の推進を目的としている。

今回は、本学経済学部の部局間交流協定校である東北師範大学(中国長春市)の李若柏教授を招き、「中国における日本語教育」と題して、日本留学を目的とした学生への日本語教育の現状と、今後の両校の連携によるより効果的な日本語教育の可能性について講演が行われた。



李若柏教授

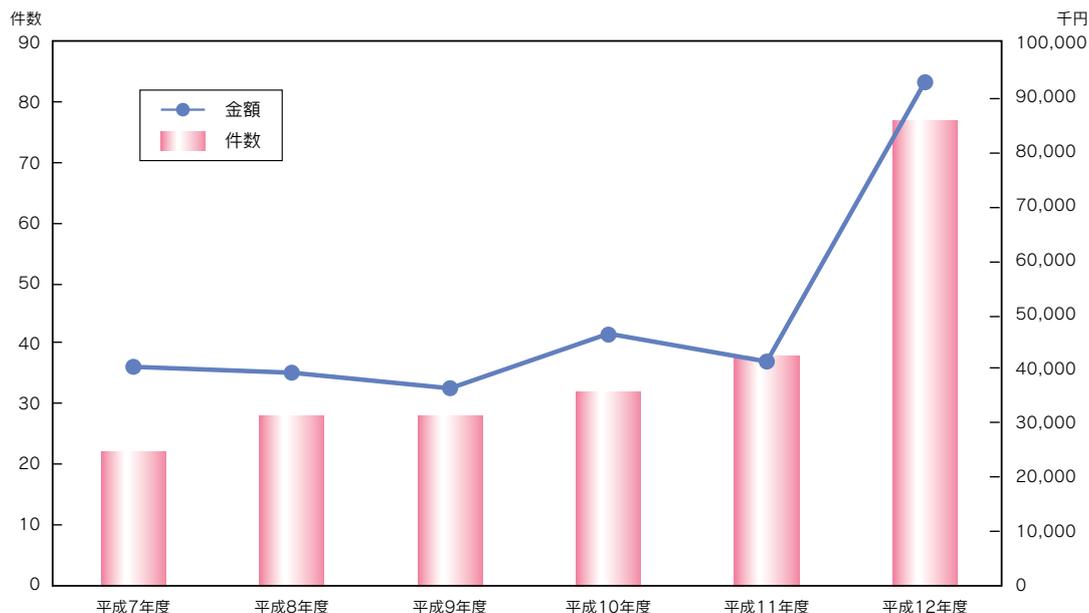


会場の附属図書館AV室

## 共同研究・いま

研究成果を社会に還元  
金沢大学共同研究センター

共同研究は、民間企業等の研究者と本学の教官が共通の課題について対等の立場で共同して研究を行う制度で、大学の研究成果を社会に還元する上で大きな役割を果たしている。本学においても、共同研究の一層の推進が重要な課題となっている。平成12年度の共同研究の契約件数は、1月19日現在で77件となり、平成11年度の38件と比べて、倍以上となった(図1)。



共同研究の契約件数・金額の推移

◆共同研究センターの各種事業を支援する共同研究センター協力会(仮称)を県内の各企業等の協力を得て設立することが1月19日の評議会で了承された。現在、年度内の設立に向け準備中。

◆なお、平成12年度金沢大学放送講座「知の集積回路 プロジェクト金沢II産学官協力の最前線」にも共同研究センターが深く関わっている。(内容は「アカサスニュース」第53号6頁で紹介)

## 最近の共同研究センターの活動スナップ



**北陸技術交流テクノフェア2000への出展**  
(平成12年10月27日・28日 福井県産業会館)  
北陸地域の産官学が一堂に会し、本学の共同研究センターのブースでも、共同研究の内容や商品化の例等がパネルで紹介されるとともに磁気浮上装置の実演等が行われた。



**産学連携推進フォーラムの開催**  
(平成12年11月9日～12月13日 計5回 工学部秀峯会館)  
本年度共同研究センター客員教授5人が技術情報やトピックス的な話題をとりあげ、産学連携や交流のきっかけとなる講演を行った。写真は、本学客員教授の渋谷弘利(渋谷工業㈱取締役社長)



## 特許無料相談会

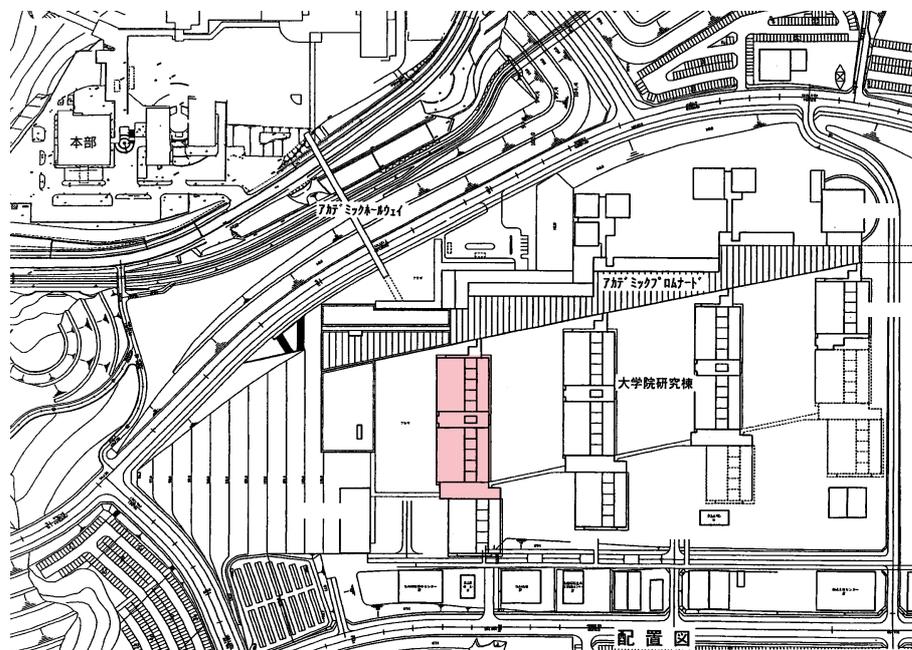
(平成12年11月16日 工学部秀峯会館)  
本学教官を対象にした特許無料相談会が初めて行われ、参加者は、出願手続きや研究成果の製品化等について弁理士の西孝雄氏から懇切丁寧な説明を受けていた。

## トピックス

## 総合移転第Ⅱ期計画事業 角間南地区大学院研究棟着工決定

この度、第Ⅱ期移転工事用地に大学院研究棟の着工が決定し、建物建築の第一歩を踏み出すこととなった。

今回の着工予定部分



(平成13年1月末現在)

### 「ベテラン係長」対象 初の研修会

1月24、25日の両日、事務局大会議室で、平成12年度専門職員・係長研修が開催され、5年以上の専門職員・係長25人が参加した。

講義は林学長の「金沢大学の課題」で、この他事例研究及びブレイン・ストーミング等が行われた。

また、この中で、「自己啓発講演会」を兼ねて、弁護士の清水幹裕氏による甲子園での審判の経験を活かした「部下の育成」、(株)アイ・オーデータの小島宗能氏の「企業経営精神」と題する特別講演も行われ、水上事務局長の「大学改革における事務職員の役割」で2日間の研修を終えた。



水上事務局長による講義

### 出向職員との懇談会



1月26日、北陸三県の他の国立学校等に出向している事務系職員が本学に集まり、「人事交流者との懇談会」が開催された。

水上事務局長のあいさつ、吉田総務部長等から本学の現況について説明があった後、人事交流者から出向先の現況・体験談を聞く情報交換が行われ、久しぶりの古巣で大いに盛り上がった。

本学から出向している76人の職員のうち、福井医科大学、富山医科薬科大学、北陸先端科学技術大学院大学、石川工業高等専門学校、国立能登青年の家から計35人が参加した。

### 情報公開、待ったなし 4月開始に向け説明会開催

1月15日、事務局大会議室で、4月1日の情報公開法の施行に備え、情報公開に関する事務説明会を開催した。

総務部の担当職員の説明に、約90人の参加者は真剣なまなざしで耳を傾けていた。



## 1月のニュースの杜

林学長年頭あいさつ  
「開放の中での自立」を強調

1月4日、平成13年の仕事始めにあたり事務局大会議室で、林勇二郎学長が「これからの大学には、開放の中での自立が求められている」と年頭のあいさつを行った。



## 証明書自動発行システムを拡張

本学では、成績証明書等15種類の証明書を自動発行化してきたが、このほど、新たに自動発行時間の延長(8~21時)、事務局棟学生部エントランスへの自動発行機の増設、健康診断証明書の自動発行化を図り、その運用開始にあたり、1月9日林学長はじめ関係者に披露された。

なお、英文対応の健康診断証明書の自動発行化は国立大学では初の試み。



自動発行機を操作する林学長

## 本学へのお客さま



国連大学駒月事務局長(右から2人目)、ラトナ・ラナ所長(右)学長室にて

1月30日、国連大学駒月昭雄事務局長、いしかわ国際協力研究機構ラトナ・ラナ所長、大西健悟事務局長の3人が林学長を表敬訪問した。

## サテライト・プラザ

## 「金沢大学サテライト・プラザ」

第10回 1月6日(土)

講師 中村 浩二 (理学部教授)

演題 「角間の里山自然学校～2000年の活動と新年度の展望～」

講師 御影 雅幸 (薬学部附属薬用植物園長, 薬学部教授)

演題 「角間の里山の薬用植物」

「市民と語る『角間の里山』」をテーマに、理学部、薬学部から2人の教官がそれぞれ講演を行った。

「角間の里山自然学校」の活動状況、里山で採れる薬用植物の紹介など、角間にある貴重な里山を知ってもらおうよう呼びかけた。

なお、会場では、1月1日に制定された金沢大学校章と校旗が紹介された。

来場者：60人



中村教授



御影教授



熱心に聞き入る参加者

第11回 1月20日(土)

講師 松下 良  
(薬学部助教授, 薬学博士, 薬剤師)

演題 「くすりの正しい知識, のみ方, 考え方」

くすりを飲むときの注意点、薬剤師の仕事、最近病院でくすりをもらえない訳など、くすりを取り巻く様々な疑問に答えた。大雪で足元の悪い中であつたが、集まった参加者は日頃からの身近な疑問が解けて大いに役立った。

なお、“お薬相談コーナー”も設けて個別相談にも応じた。

来場者：21人



松下助教授

「金沢大学サテライト・プラザ」  
ミニ講演録が完成

サテライト・プラザで行われたミニ講演の講演録を順次作成している。

参加したが詳しい内容を知りたい方、おしくも聴き逃された方などは活用していただきたい。希望者は総務部企画広報室まで。



## 訃報

1月、現職お一人がお亡くなりになりました。ここに御報告するとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

駒井正一 教授 (文学部)

1月24日逝去 享年57歳



## 金沢大学の皆様へ

金沢大学健寿会副会長 市村 秀夫

新年を迎え健寿会の会誌『健寿』に会員からの寄稿近況文等の募集が始まった。続いて本年度退職者に対しての会員募集も開始された。一人でも多くの方が新入会員になれることを期待している。

幸い金沢大学健寿会の役員として、ボランティアではあるが私に与えられた仕事として、少しでも会員の皆様に喜び楽しんで貰う知恵を振り絞っている。

学長はじめ、金沢大学教職員の皆様の御健勝をお祈りしたい。  
(「金沢大学健寿会」は、金沢大学を退職した教官を除く職員で組織され、現在会員は380人。)



事務局長室で水上事務局長と懇談する市村副会長。(写真左)

## キャンパス点描

### 辰口共同研修センターの「雪がこい」

毎年、雪から建物を守るために用意される「雪がこい」。久しぶりの大雪に、この「雪がこい」も少々驚いたのでは…。



## 編 集 後 記

15年ぶり的大雪となった。この大雪で、「点描」でも紹介した金沢大学の辰口共同研修センターの「雪がこい」も久しぶりにその役割を果たした。

そんな大雪の中、「サテライト・プラザ」を開いた。「ミニ講演」講師の先生は「講演内容は良かったのだろうか、話し方は良かったのだろうか」と参加者数を気にしていた。このような心遣いをいただくことは、とても嬉しい。

北陸の冬は寒く長い。この季節の「サテライト・プラザ」に何を企画するのか。

「サテライト・プラザ」では、「ミニ講演」の案内に公民館、中学・高等学校や企業に出向いており、市民の方々から多くの意見をいただく。厳しい意見、嬉しい意見。大学に寄せられたこれらの意見や注文を学内にも伝え、これからの大学改革に反映させていきたい。

(総務部企画広報室専門員 宮坂一雄)

追伸：本号は記事の関係で、8頁で発行しました。

平成13年2月16日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5022  
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS” (キューピーズ))  
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。  
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール (E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。